

令和5年度 学校における働き方改革推進モデル校 実践報告 古田中学校

学校の概要

- 学校教育目標「気づき、考え、やり抜くことのできる、心身ともにたくましく、思いやりのある生徒の育成」
- 学校経営計画（働き方改革）「教職員が心身共に健康的に生徒に対応できるための業務改善」
- 生徒数667名（23学級：特別支援学級等含む）



令和5年度に解決を目指した主な課題

◆プランの達成目標の実績（令和4年度）

項目	令和4年度実績			
	全体	校長・教頭 主幹教諭	教諭等	事務 職員等
目標1 年間月平均の勤務時間外の在校等時間が45時間以下の教職員の割合：100%	38%	0%	32%	100%
目標2 連続した3か月平均で勤務時間外の在校等時間が80時間以下の教職員の割合：100%	85%	67%	84%	100%
目標3 年次有給休暇の平均取得日数：16日以上	11日	6日	11日	12日

◆校内アンケート結果より（令和5年4月実施）

質問項目	回答の割合
勤務時間外の在校の要因となっている業務は何ですか	1位 授業準備、保護者対応 各59.4% 3位 部活動 53.1%
自身は先を見通して計画的に業務を遂行できていますか	肯定的な回答 50.0%

- 授業準備の時間が保護者対応や部活動で確保できていないので、放課後の時間を確保する必要がある。
- 計画的に業務を進められないことも、時間外の要因となっていると考えられるので、先を見通して業務を進めることができる体制を整える必要がある。

主な取組と成果

放課後の時間確保

【取組】

- ① 定時退校日（火曜日）の持ち方の工夫
定時退校日としている毎週火曜日を部活動休養日とするとともに、5時間授業・清掃なし・終学活5分・14:30下校の日課（本校では「会議日課」呼んでいる。）とし、さらに、諸会議を入れないこととすることで、放課後の時間を確保した。
- ② 部活動終了時間の繰り上げ
夏季休業期間終了後から夏季の部活動の終了時間を、17:30完全下校に繰り上げた。その際、活動時間を保障するため、活動着で下校してよいこととした。
- ③ 保護者との連絡手段の複線化
欠席生徒への連絡にICTを活用した。

【成果】

◆校内アンケート結果より（令和6年1月実施）

質問項目	回答の割合
①の取組が効果的であったと感じる	86.7%
②の取組により業務の改善ができた	83.4%
③の取組により業務の改善ができた	88.9%

- 定時退校日については、年度内の時間割を8月中に作成することで、年間を通して5時間授業の日を設定することができた。このことにより、毎週1日は業務に専念できる時間を保障することができた。

校内情報共有の改善

【取組】

- ① PCによる情報共有を進めるとともに、伝達の即時性を図るため、5月から、職員室内のコピー機前に、掲示板を設置し、紙ベースによる情報共有と併用した。
- ② 日課や予定等を見通せるよう、各月の行事予定表及び時間割を、1か月前には提示した。変更があった際も直ちに掲示するようにした。

【成果】

◆校内アンケート結果より(令和6年1月実施)

質問項目	回答の割合
業務の改善ができた	96.7%

○ 掲示板の情報更新を随時行う必要があるが、毎日の職朝連絡プリントや行事に関わるプリントを掲示することで、多くの教職員が、掲示板の前で足を止めて確認するようになった。また、タブレットで写真にとる教職員もいる。必要なプリントを探す必要がなくなり、時間の削減につながった



令和5年度の取組の評価

◆プランの達成目標に対する実績より

項目	R5実績	R4実績との比較
目標1	56%	+18P
目標2	88%	+3P
目標3	17日	+6日

- 目標1「年間月平均の勤務時間外の在校等時間が45時間以下の教職員の割合：100%」については、昨年度と比べて、18ポイント増加した。ただ、4～6月は超過する者が多く、教職員平均でも45時間を超えていた。
- 目標2「連続した3か月平均で勤務時間外の在校等時間が80時間以下の教職員の割合：100%」については、昨年度と比べて、3ポイント増加した。ただ、4～6月と5～7月に80時間を超える教職員が複数いた。
- 目標3「年次有給休暇の平均取得日数：16日以上」については、定時退校日の取組もあり、昨年度と比較し、実績日数が大きく増えた。

◆校内アンケート結果等より

質問項目	R5.4月	R6.1月
勤務時間外の在校の要因となっている業務は何ですか	授業準備 59.4%	50.0%
	保護者対応 59.4%	33.3%
	部活動 53.1%	43.3%
自身は先を見通して計画的に業務を遂行できていますか	50.0%	68.9%

- 自由記述より
『火曜日5時間授業で、会議日課は大変良いと思った。職員室を見ても分かるが、生徒情報の共有をしたり、授業準備をしたり、年休を取得したり、などゆとりができています。』
『長期の休業があることが魅力ではあるが、日々の業務が多忙になるのであれば、長期休業日を減らし通常勤務日の中で5時間で会議日課が設けられると平均的にゆとりのある教員生活が送れるとともに生徒と関わる時間を増やすことにつながると思う。』

◆まとめ

4月に実施した校内アンケート調査を踏まえて設定した課題については、改善に向けた取組を進めることができています。その結果、プランの達成目標に対する実績の改善を進めることができた。また、校内アンケート調査結果において、『職場には気兼ねなく帰れる雰囲気がある』の質問についても、肯定的な回答が4月の71.9%から1月は82.8%となっており、働き方改革の意識の変容につながっている。

次年度の取組の方向性

- 今年度は、授業準備や時間を要する業務に専念できる時間確保のために、定時退校日の取組を中心に進めた。次年度は、清掃の有無や会議日を固定することで、よりメリハリのある一週間の日課に取り組む。
また、日課や行事の見直しを行い、今年度の課題となった年度当初の長時間勤務の解消や、子どもたちへよりよい教育を提供していくための取組を進めるために時間の確保、内容の充実を図る。